

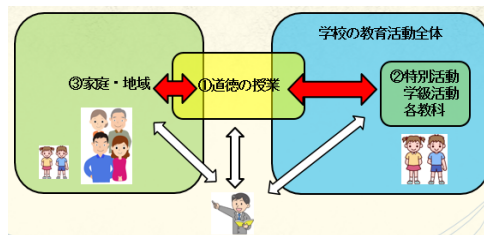
部 長 松 永 恒 二
研究主任 戸 田 昭 宏
部 員 数 28名

1 研究主題

「教育活動全体を通じて心豊かでたくましい児童・生徒を育てる」
～家庭・地域・道徳の時間・各教科をつなぎながら～

2 はじめに

本年度は、「児童・生徒の正しい道徳性を養っていくためには、道徳の時間だけではなく、教育活動全体を通じて道徳教育を行うことが大切である」と考え、研究主題を修正して研究を進めた。右のように、教師が様々な活動をつなぐことを意識しながら、道徳教育を行った。



3 研究経過

教育研究会開催日に、小・中学校合同で各部員が授業実践を報告して、4人グループの話し合い、全体協議という流れで研究会を進めた。特に今年度は、研究主題に基づき、教育活動全体を通じて道徳教育を行うことに重点を置きながら研究を進めた。授業についてだけでなく、道徳教育に関わる特別活動などの意見交換も行った。研究日の開催日は、以下の通りである。

- ① 4月20日 ② 5月11日 ③ 10月12日 ④ 12月7日
⑤ 1月11日 ⑥ 2月8日

4 研究の概要

「全学年が一緒に道徳性を養うことができるような活動をすることで、目指す児童像に近づいていくのではないか」という仮説を立て研究を進めた。サークル部員同士で研究主題に沿った活動を報告し合い、意見交換をした。

内容の一例を以下に紹介する。

〈資料名〉6年生の責任って？

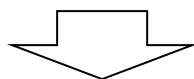
〈ねらい〉集団における自分の役割を自覚して、学校生活を充実させようとする実践意欲と態度を育てる。

〈指導の工夫〉

- ・本来2学期の計画を年度当初に実施時期を変更した。
- ・事前に3年生に、高学年の印象等についてアンケートをとり、授業の終末で読ませた。
- ・その後の学校生活に生かせるように、6年生の学年掲示版にアンケートを掲示した。

〈児童の変容〉

- ・ 学校全体をよりよくしたい、これからもっと頑張りたいという気持ちが向上した。
- ・ 多くの児童が6年生の責任を自覚することができた。



〈教育活動全体を通じた道徳教育〉

児童会が中心となって企画・実施した。教師は、こうした活動をサポートするとともに、常に道徳教育を意識して指導をすることを心掛けた。また、地域や保護者の取り組みについても、常に児童に伝え、感謝の気持ちを抱かせるよう心がけた。

- ア 学校マスコットをつくろう（愛校心）
- イ 花華プロジェクト（感謝・思いやり・生命の尊重）
- ウ モザイク壁画プロジェクト（協力・助け合い、愛校心）
- エ ありがとう集会（礼儀・感謝・勤労）
- オ 笑顔満開ふわふわ言葉運動（親切・思いやり・感謝・友情・信頼・よりよい学校生活）
- カ 6年生の卒業を祝う感謝の会（礼儀・感謝・思いやり・協力・助け合い）
- キ 卒業掲示制作（礼儀・感謝・思いやり・協力・助け合い）

〈成果〉

道徳の授業だけでなく、全学年が一緒に道徳性を養うことができるような活動することで、前年度よりも「思いやりの気持ちをもって生活し、悪口や暴力、他を中傷したり攻撃したりするような『ちくちく言葉』を減らすことができた。目指す児童像に近づけることができた。

「よくできた」と回答した人の割合（％）			
	令和2年度	令和3年度	
友達と仲良くよくすごすことができた。	74	78	4%増加
誰にでも 思いやりの気持ちをもって生活することができた。	45	52	7%増加
困っている友達がいたら、助けることができた。	51	51	変化なし
友達が喜んでくれるとうれしい気持ちになる。	73	80	7%増加
友達から 悪口を言われることは全然なかった。	44	53	9%増加
友達から暴力をされることは全然なかった。	62	72	10%増加
ふわふわことばをたくさん使った	43	42	1%減少
ちくちくことばを使わなかった	52	61	9%増加
けんかをしなかった。	50	58	8%増加
家族に、いつもありがとうの気持ちをもっている。	73	79	6%増加

5 今後の課題

研究を通して、道徳の授業で学んだことと、様々な教育活動を教師がつなぐことが非常に大切であると改めて感じた。学んだ道徳的価値に関して、いかに継続して発揮できるようにするかということが今後の課題である。年度が変わって集団が再編されても、児童が継続して意識できるように「教育活動全体を通じて道徳教育を行う」という意識を持ち続けていく必要がある。今後も、「時と場と相手を選ばない誠の道徳的実践力」を培うための道徳教育を追及していきたい。